

〔3番 菱谷真美子さん登壇〕

○3番（菱谷真美子さん） 3番菱谷です。よろしくお願いたします。

それでは、通告に従いまして質問いたします。

私は、市と民間とが連携してまちづくりをすることによって、もっと島田市を魅力あるまちにできないかということについて大きく2つ質問させていただきます。

人口減少が進む中、就労人口を増やし、商業を活性化することは市の大きな課題であると思えます。

私は、今年から市内でシェアショップとコミュニティカフェという取り組みを仲間とともに始めました。プロジェクトのかなめは、若者や女性らに自分の得意分野を生かして魅力あるスクールやイベントをともにつくり上げていくということです。今後は、そこでつくり上げた人的ネットワークを生かして、例えば新規出店や起業するために必要な場を提供できるよう、空き店舗を活用したリノベーションにも取り組んでいきたいと考えています。

そこで、1つ目の質問として公民連携によるまちの活性化について、1の(1)としまして遊休不動産や空き店舗を活用したシェアスペースやコミュニティカフェなどの起業や経営に関して市はどのような取り組みを行っていますか。

1の(2)として、道路、公園及び公共施設など市が所有するものを市民活動だけでなくビジネスにも活用するようなお考えはありますか。

また2つ目として、島田市の公共施設等にデザイン性を感じていないことです。外からの視線を考えたときに、島田市の魅力を発信するためにはデザインというキーワードが重要になってくると考えております。そこで、街並みのデザインについての質問です。

2の(1)島田駅から街並みを見通したとき、建築物やサインの色彩、デザイン等がばらばらで調

和がとれていないと強く感じています。島田市として景観的な基準をどのように設けていますか。また、現状、市の玄関とも言える駅前のおびりあ、歩歩路のサインや外看板、殺風景な駅前公園はデザイン的な魅力が乏しいと思いますが、こうしたデザインについて市はどのように考えていますか。

以上、壇上での質問とします。

〔3番 菱谷真美子さん発言席へ移動〕

○議長（仲田裕子議員） 染谷市長。

〔市長 染谷絹代登壇〕

○市長（染谷絹代） 菱谷さんの1の(1)の御質問についてお答えをいたします。遊休不動産の活用につきましては、市といたしましても積極的に取り組んでいきたいと考えております。起業や経営に関する市の取り組みにつきましては、昨年度から起業や新産業進出に係る経費の一部を補助する島田市で創める新ビジネス応援事業補助金を新たに創設いたしました。市内で起業する方をこの補助金をもって支援をしてみたいと思っております。

また、本年4月12日には地域産業の活性化を目的とした島田市産業支援センターおびサポを開設いたしました。起業希望者や既存の中小企業の課題解決のための相談業務をはじめ、これから起業したいと考えている方がスムーズに創業できますよう経営や財務等に関する基礎知識の習得のための創業支援セミナーなども企画開催をいたしております。

さらに本年度からは2年間をかけて新たな中心市街地活性化基本計画を策定していく中で、空き店舗の実態調査を実施し、リノベーションによるまちづくりの手法を取り入れていきたいと考えております。

次に、1の(2)の質問についてお答えをいたします。市が所有している道路や公園、その他、公共施設の使用については、それぞれの法律や条例等により使用の目的や方法が定められております。

これらの法令を遵守することはもちろん、施設の利用者の安全や近隣住民の生活環境なども考慮した上で、使用の可否を判断しております。しかし、これらは公共施設の利用要望に柔軟に対応し、民間の皆様方に道路や公園、文化施設、市の遊休地等を有効に活用していただくことが重要であると考えております。こうした中で公共施設や遊休不動産の利活用を研究するため、昨年度から若手職員に公民連携事業機構の公民連携プロフェッショナルスクールというものを1年に3人ずつ受講させております。公民連携のノウハウや手法をこうして学ばせているところでございます。今年度は公民連携の手法を取り入れながら、市民の皆様の活動の場を広げていきたいと考えております。

次に、2の(1)の御質問についてお答えをいたします。島田市では平成25年10月に景観法に基づき、市全域を対象に島田市景観計画を定めております。その中で、J R島田駅周辺を中心市街地について、本市の顔として活力が感じられ、商店街の魅力の向上が図られるような快適な空間の創出につながる景観の形成に努める区域であると位置づけております。さらに、一定の規模を超える大規模建築物または工作物の設置には色彩の値の基準値を定め、周囲の景観との調和を損ねることのないよう景観条例によって着手前の届出を義務づけているところでございます。

また、具体的な事例としてお尋ねのあったおびりあと歩歩路の外壁看板やサイン、そして駅前公園のオブジェについては、景観条例による規制の対象外となっております。デザインそのもののよしあしにつきましては、見る方の主観によるものが多く、市といたしましても一概に評価することはできないというふうに考えております。

以上、御答弁を申し上げます。

なお、再質問につきましては担当部長から答弁させる場合がありますので、よろしく願いをいたします。

○議長（仲田裕子議員） 菱谷真美子さん。

○3番（菱谷真美子さん） 御答弁ありがとうございます。

まず1についてですが、補助金による支援は結果的に経営者の自立を妨げる側面が指摘されています。補助金の終了とともに消えていく店舗が少なからずあるということです。ですから、行政には原則的に自立を主眼としたサポートの必要性を強く感じます。例えば、起業したばかりの人たちを募ったイベントを開催した際に、告知や宣伝などを精力的に行っていただけたらかということがあると助かります。

また、リノベーションによるまちづくりは私たちが最も目指すところであります。この手法の最大の特徴は、わずかなコストからスタートできるという点です。従来のようにきれいに内装されたテナントに高額な家賃で入居するのではなく、自分たちの手で改修工事をするなど、セルフビルドの促進や1区画を複数の入居者でシェアすることや、曜日や時間を限定した利用など、家賃を賄う新しいアイデアが既に私たちの取り組みで実証されています。

そして何よりも、それを可能にするためには、理解のある不動産オーナーの存在が欠かせません。また、最近特に駅前地区は感性豊かで元気のある若者たち、例えばママプロさんが経営するつむぎカフェであったりとか、ファッション・美容・飲食の3店舗がつくっています裏島田商店街、あとIターン、Uターンの方がいらっしゃるバシラズという音楽クリエイター集団、あとクロスメディアさん、あと私たちが運営するソライロビルなどがあります。そしてあと年月を経て味わいのある建物が残っているという潜在能力の高い希少な地区だと感じます。このリノベーションによるまちづくりに必要な要素がそろったこの駅前地区で、小さなプロジェクトでもよいので、まずは官民連携で一つの成功事例をつくっていききたいと考えて

おります。

次に2についてですが、規模の大小にかかわらず、駅前の魅力ある景観形成に不可欠なことは、例えば駅前三角公園プロジェクト室のように取り組みそのものをデザイン的な側面も含めて統括組織できる部署の存在だと思います。もしそれが行政で手当できないのであれば、それこそが民間機関のデザインチームに協力を仰げばいいと思います。まさに島田市が魅力向上に向けて動き出している今こそ、そうした機関をつくっていただけることを切に望みます。

私の提言としましては、自らシェアショップ、コミュニティカフェの運営を通して起業を志す若者たちの潜在能力の高さを実感しています。ですので、これまでの私の35年間のショップ経営、自社ブランドの構築などの経験をもとに、全力でサポートしていくつもりです。また、市内・市外・県外にも島田市に縁のある、かつ島田市に思い入れのある優れたデザインのプロフェッショナルがたくさんいます。しかし、地方での仕事にはなかなかデザインの要求度が低い場合も多く、彼らの魅力を生かし切れておりません。これからは彼らとともに島田市の街中を元気にするような場を見つけ、そこに仕掛けを組み込んで、どんどん積極的に島田市を使いこなしていこうと思っています。

こんな中、私たちでは太刀打ちできない規制や煩雑な手続など行政側に力を貸していただき、ともに協力体制をとりながら進めていければ、スピーディーかつすばらしいものができるのではないかと未来に希望を持っています。ぜひとも公と民お互いがバランスのよい関係性の中で地方の未来を築く新しい公民連携を実現したいと思っています。

以前、イベントを開催する際に、駅前公園を使って素敵な仮設の休憩所をつくらうとしたときに、残念ながら市からはあまり積極的な姿勢を感じる事ができませんでした。ただ、今こうして市の方々とは真剣にお話できる機会をいただけたこと

を心より感謝申し上げます。

以上で質問を終わりとします。ありがとうございました。

○議長（仲田裕子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） まさに我が意を得たりと思うような御提案をしていただいたこと、心より感謝を申し上げます。以前から思っております私の信念の中に、補助金というのは決して自立を促すものではない。補助金漬けになってしまうと、そこから抜け出せなくなって、それがありきになってしまうのです。ですから、補助金というのは限られた期間内だけのものだというふうには思っております。また、お金ではない支援のあり方ということがまさに皆様方の活動を発信したり、宣伝したり、あるいは規制緩和でやりやすくして差し上げること、これがこれからの行政の務め、仕事であるというふうに感じております。

例えば一例を挙げますと、おび通り、大変に私は残念に思っているのは、毎週末、あそこでフリーマーケットがあってもいい、骨董市があってもいい、あるいは街角のコンサートがあってもいいというふうに思っていますが、なかなか使えないのです。その理由の一つは、あそこが島田市道という普通の道の道路指定になっておりまして、そこで何かをするには1区画ずつ警察に届出をしないとなりません。フリーマーケットをやるなら、相当な申請書を用意しなければならないというような規制があることも事実でございます。ならばいっそ、あそこを道路ではなくて緑地指定にしたらどうなのだという事私もお話をしております。そうしますと、今度は2つの道路に面しているお宅は建蔽率が高くなりますが、市道が片一方なくなってしまうと、今あるお宅の建蔽率等にも関わる問題になってまいります。大変に規制緩和と言っても難しい課題がどんなことでも起こってくるのです。

そうした中、今、島田市道の上に緑地市道を二

重指定でかけられないかということを担当のほうに検討させているところでございます。とにかく今年中にあのおび通りをしっかり使えるようにしたいと私はハッパをかけているのが現実なのですが、同じように今、民間の方が活動しやすくできるような仕組みをつくるのがこれからの行政の仕事であるというお話をいたしました。これはまさしくそのとおりですので、今回、菱谷さんにこうした場面でお目にかかって御意見をいただいたことは、私としては大変うれしく、チャンスだというふうに思いました。と同時に、行政がやる仕事というのは、やはりこれまでの行政の枠からなかなかみ出せないところがあるのです。私はそんなもの取っ払えと言っていますが、なかなかできないところもあるのです。そうした中、民間の方たちとの連携の中で、いい、私たちがここをやるからと言っていただく中で、行政との連携、そして私どもにできること、そして皆さんのお力をかりること、これを重ねながら、例えば駅前のその三角公園のプロジェクトでありますとか、こうしたことから取り組んでいけたらありがたいというふうに私は思っております。

それから、不動産オーナーの存在というのは大変大きくて、この官民連携プロフェッショナルスクールというの、たった1つの空き店舗をどう活用するかということをも日本中からデザインや建築やまちづくりやさまざまことに関心のある若い人たちに集まっていただいて、たった1つの空き店舗をどう活用したらいいか。普通は3泊4日とかそういう短い時間の中で練りに練っていただいて、最終日に不動産の持ち主、オーナーに御提案をさせていただく。そのときには、何年で投資額を回収できるかというような財政的な御提案もさせていただきながら、オーナーがそれをよしとしていただければ、その空き店舗が変わっていくというような、そういう取り組みをしている事例も全国的にはございます。ぜひ、商店街が丸ごと昔

のようになることは難しい時代ではありますが、1店舗ずつを狭い範囲の中で変えていけば、これはまちが変わっていくのです。そうしたお手伝いや発想をぜひ市民の皆様とともに、そして全国から島田市に関心を持っていただける方々とともに実施をして実現をしてみたいと思いますので、御協力をよろしくお願い申し上げます。

○議長（仲田裕子議員） 菱谷真美子さん。

○3番（菱谷真美子さん） ありがとうございます。実はそのリノベーションスクールに関しましては行政主体でやるスクールだったので私は参加することができなかったのですが、少しさわりの部分で清水のほうで関わらせていただいて講演を聞かせていただいて、すごく感銘を受けたので、そういうことを私たちでも一つでもやっていけたらということから発想したことですので、これからまた頑張ってやっていきたいと思っておりますと同時に、おび通りも大事だと思うのですけれども、私は今可能性があるのは駅前地区が非常に可能性のある地区だと考えておりますので、そちらのほうにもぜひ力を貸していただきたいと思っております。

以上で質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（仲田裕子議員） 染谷市長。

○市長（染谷絹代） 私も自費で北九州までリノベーションスクールに参加しに行っております。発表も全部聞いております。もちろん意欲がなければ、この忙しい中、時間をつくってそこまでは参りません。ですから、ぜひ皆様方とも連携をしながら、こういった機会を次のステップに生かせるように頑張ってみようと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○議長（仲田裕子議員） 菱谷真美子さん。

○3番（菱谷真美子さん） いろいろ心強いお言葉をありがとうございます。これからも私、頑張っていきますので、ぜひまた力を貸していただければと思います。よろしくお願いたします。あ

ありがとうございました。